

芝のお手入れ

(有) 山村造苑

～植え付け後の水やり～

張ったばかりの芝の根は1センチ程度しかありません。

つまり、すぐに乾燥して枯れやすいのです。

根が1センチ程度でも、地面が濡れただけでは根まで水分が届きません。

なので一度水やりをした後、もう一度たっぷりと一回り水をかけるようにしましょう。

大体、植え付け後最初の2ヶ月は最低一日一回（※雨の日を除く）の水やりが必要です。

1. 芝刈り

美しい芝生を保つために欠かせないのが芝刈りです。

芝刈りを怠ると、雑草も伸び芝草への日当たりが悪くなったり、蒸れた状態が続くので害虫を招く原因となる場合もあります。また芝刈りをすることで、日当たり・風通しがよくなり雑草の侵入を防止するとともに、茎が刺激され密生した芝になります。

芝刈りの頻度は、基本的には月に1～2回、成長の早い夏の間は月に3～4回の刈り込みが理想です。

また、
刈る際は**多方向からの刈り込み**を心がけましょう。

もし刈るタイミングを逃がしてしまった場合は、
一度に刈らず
何回かかけて徐々に丈を低くしていきます。

2. 施肥

施肥の条件は土壌や芝生の状況によって変化しますが、基本的には生育期に施すのが効果的です。4月頃から始めて、大体9月あたりまでは**月に一回程度**の施肥をしましょう。肥料で栄養を与え、成長したところを刈り込むというサイクルが出来れば、いい芝庭が出来てくるはずですよ。

3. 水やり

芝生の水やりはむしろ放っておいてもよいくらいなのですが、量や時期なども知っているとういかもしれません。

水遣りは回数は少なくても、一度に与える量が多いほうが効果的なのです。地表がぬれる程度ですぐに乾いてしまうので、地中深くまで届くようにたっぷりとあげるようにしましょう。

また水やりには土を表土になじませる効果もあるので、肥料や目土を施した後には必ず水やりを行いましょう。

4. 除草

残念ながら雑草は芝よりも生育が早いので、見つけたらすぐに取り除くことが重要です。

一般家庭での除草は手や除草ホークで十分なので、とにかく芝をこまめに観察し、見つけたら根元から完全に取り除くようにしましょう。

また、芝の面積が広くこれらの手段で除去仕切れない場合は除草剤を使います。

薬剤を散布する際は説明書をよく読み、散布量や周囲の環境に与える影響に気を配りましょう。心配であればショップで相談したり、最近では芝を枯らさない除草剤も市販されているので使ってみるのもよいかもしれません。

5. 病害虫対策

病害虫対策で大切なのは「病害虫の出にくい環境をつくること」。

一番の予防はやはり日当たり・排水・刈り込み・水やり、施肥です。

比較的日本芝は病気に強いとされていますが、代表的な病気では「さび病」「ブラウンパッチ」等があります。

さび病

肥料が不足すると初夏や秋口に発生しやすくなる。葉に赤い斑点がつく症状の病気。

ブラウンパッチ

別名「葉腐病」ともいう。6月下旬から9月下旬にかけて多く見られる病気。直径数十センチの円形に枯れていく症状がある。

虫で多いのは、コガネムシ類とヨトウムシ類が多いです。

コガネムシは幼虫のうちに地中の根を食べてしまいます。ヨトウも害虫の一種で、幼虫のうちに葉や茎を食べあらし、大きな被害をもたらす害虫です。

○薬剤散布の注意点○

周囲の植物に薬剤がかからないようにし、風のない日や散布後に雨が降らない日を選びます。また、薬剤を使用する際の注意事項をよく読み、散布後の保管に気をつけましょう。